

ボウリング大会報告

昨年 11 月 24 日(土)、JCV 主催のボウリング大会がメントーンのボウリング場で行われた。

これまでも何度かボウリング大会は行われていたが、今回は大きな特徴として、会員プラス 1 名は無料、そして、成績により多くの参加者に賞品が用意されていたことだ。

大会開始時間は午後 4 時半、参加者はその前に受付を済ませて、シューズを借り、自分に合ったボウルを選んでレーンについた。会長の挨拶に続き、始球式も会長が行なった。日本の野球の始球式の場合、バッターは意識的に空振りをするのが普通だが、会長の一投もそれと同じようにガターだった。

ゲーム開始前は半分以上のレーンがプレーを楽しんでいた OZ たちで一杯だったが、ボウリング大会が始まる頃は我々だけになってしまい、まるで貸切りの状態だった。

久しぶりのボウリング場内の様子で、一番驚いたことは、場内全体が薄暗くてレーン毎に赤、青、緑、白などのライトがピン上から照らされ、白いはずのピンがその色に見えたのが不思議だったことだ。そんな新しいアイデアが見られたにも拘わらず、モニターがアナログだったのがいかにもオーストラリアらしくて憎い。

参加者名簿や結果のスコアを見ていないので、詳しいことは分からないが、とにかく個人的には 2 ゲームトータルで他の人よりスコアが良かったようで優勝することができ大満足。

プレイそのものは一投目が殆ど第一ピンの方向に投げられ、一度もスプリットがなかったのが良い結果につながり、二度もダブルがあったのも打球数が少なく済み、他の

人より省エネで疲れが少なかったのかもしれない。

それでは、大会で感じたことを少し書いてみることにしたい。まず、会長一人がマイボウル持参だったので、もう少し良いスコアが出ると思ったが、息子に 1 ポイント差で敗れとても悔しそうだった。そのプレストン家の 4 人家族が一番大きいグループ参加の他、4 才のオスカー君と言う男の子がお母さんと参加。オスカー君は自分でボウルを投げることはできないので滑り台のようなものを使い、そして、ガターにボウルが落ちないように、ガターをふさいでプレーを楽しんでいた。以前は我が家も 5 人家族でいろいろな行事に参加したことが懐かしく思い出され、現在、二人も孫ができて、時が過ぎたことを感じた一日だった。一番の年長者は須原さんだったと思うが、意外とパワフルなフォームでも元気なプレーを見せてくれた。

斉藤幸子さんの最終スコアは分からなかったが、フォーム自体一番様になっていた。

全員 2 ゲーム目は少し疲れた感じでスコアを落とした人が多かったみたいだ。

大会の最後はサンドイッチとフィンガーフード、そして、ソフトドリンクの軽食を食べながら会長から成績発表があった。暑い日だったが、室内はクーラーも効いていて爽快で皆さん良い汗をかいたのではと思う。

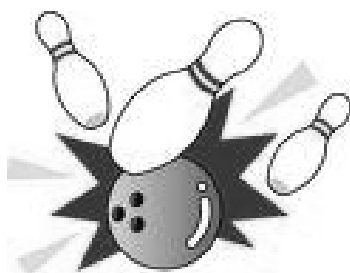
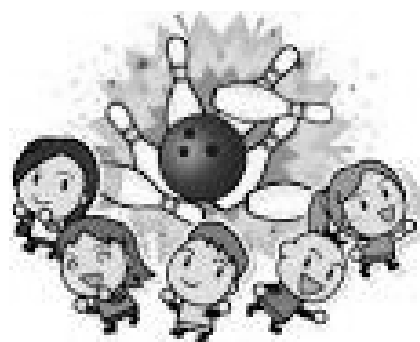
せっかくの楽しい企画だったので、次回をもっと沢山の会員が参加できるよう工夫をされたらもっと良いと思う。

それでは今回も準備と運営をしてくれた会長、事務局長に感謝をして大会のレポートとしたい。

永嶋 実 記



参加者の集合写真（早く帰ってしまった須原さんとカメラ担当のデービス事務局長が写っていないのが残念）



ボウリングに使用する球は、英語では『Bowling Ball』と呼ばれますが、ここでは、球をボウルと表記しました。

編集部注



ボウリングも楽しかったが、成績発表の時の軽食も大変美味しかった